
5056. 関税割当証明書内容呼出し

業務コード	業務名
TQB	関税割当証明書内容呼出し

1. 業務概要

「関税割当裏落数量仮登録（TQC）」業務、「関税割当証明書内容訂正（TQE）」業務、「関税割当裏落内容税関確認後訂正確認（CQC）」業務に先立ち、各業務に利用しうる情報を呼び出す。

2. 入力者

税関、通関業、輸出入者

3. 制限事項

なし。

4. 入力条件

(1) 入力者チェック

- ①システムに登録されている利用者であること。
- ②呼出し区分に「T」を入力した場合、関税割当証明書DBに登録されているシステム登録依頼者と同一であること。

(2) 入力項目チェック

(A) 単項目チェック

「入力項目表」及び「オンライン業務共通設計書」参照。

(B) 項目間関連チェック

なし。

(3) 関税割当証明書DBチェック

- ①入力されたNACCS用関税割当証明書番号が関税割当証明書DBに存在すること。
- ②TQE業務により、関税割当証明書内容削除の旨が登録されていないこと。
- ③「関税割当証明書内容確認（CQA）」業務により、関税割当システム管理終了の旨が登録されていないこと。
- ④入力された輸出入者コードが、関税割当証明書DBに登録されている輸出入者コードと一致すること。
輸入者コード欄に入力された輸入者コードまたは法人番号で以下のチェックを行う。ただし、国内用輸出入者DBにて輸出入者コードと法人番号が紐づいて登録されている場合は、相互に変換してチェックを行う。
 - (A) 関税割当証明書DBに登録されている輸出入者コードが12桁の輸出入者コードまたは17桁の法人番号である場合は、入力された輸出入者コードが関税割当証明書DBに登録されている輸出入者コードと一致すること。
 - (B) 関税割当証明書DBに登録されている輸出入者コードが8桁の輸出入者コードである場合は、入力された輸入者コードの先頭8桁が関税割当証明書DBに登録されている輸入者コードの先頭8桁と同一であること。
 - (C) 関税割当証明書DBに登録されている輸出入者コードが13桁の法人番号である場合は、入力された輸入者コードの先頭13桁が関税割当証明書DBに登録されている輸入者コードの先頭13桁と同一であること。
- ⑤申告等番号の入力がある場合は、申告等番号及びNACCS用関税割当証明書番号の組み合わせが関税割当証明書DBに存在すること。

5. 処理内容

(1) 入力チェック処理

前述の入力条件に合致するかチェックし、合致した場合は正常終了とし、処理結果コードに「00000-00000-00000」を設定の上、以降の処理を行う。

合致しなかった場合はエラーとし、処理結果コードに「00000-00000-00000」以外のコードを設定の上、処理結果通知の出力を行う。（エラー内容については「処理結果コード一覧」を参照。）

(2) 出力情報出力処理

後述の出力情報出力処理を行う。出力項目については「出力項目表」を参照。

6. 出力情報

情報名	出力条件	出力先
処理結果通知	なし	入力者
関税割当証明書内容訂正情報	呼出し識別欄に「T」の入力がある場合	入力者
関税割当裏落内容登録情報	呼出し識別欄に「U」の入力がある場合	入力者
関税割当裏落内容税関確認後訂正確認情報	呼出し識別欄に「Y」の入力がある場合	入力者（税関）

7. 特記事項

裏落内容の出力順序は仮登録を行った日時での降順とする。